

令和7年度

江原南小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎的・基本的事項を身につけさせる指導の継続  
○児童が意欲的に取り組める課題を設定し、見通しをもって学習できる授業の実践

校長

山口 茂

学力向上推進員

校長・教頭・教務・各学年主任・特別支援コーディネーター・学力向上担当

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算は、学年相当の力をもっている児童が多い。 ●知識・技能習得レベルに偏りがあり、学力が二極化している。 ●文章の内容を正しく理解し、読み取ることが難しい児童が多い。	・該当学年の漢字・計算を身につけることができる。 ・文章を読み、内容を正しく読み取ることができる。	・反復練習のバリエーションを増やし、児童が進んで取り組めるようにする。(定期的な小テストの実施、PDCAサイクルを意識したテストの実施、タブレットを活用しての前学年の復習など) ・キーワードとなる言葉に下線を引く、丸で囲む、接続詞の役割などを丁寧に押さえるなどして、読み取りのやり方を身につけさせる。	継続	・漢字・計算について、小テスト、ドリル学習、タブレット等で反復練習をすることができ、自分に必要な学習を選択できる児童が増えた。 ・キーワードに下線を引くなど、読み取りの仕方を身に付けていない児童もいる。	・児童が興味をもって取り組める反復学習の継続や学年に応じた反復学習による基礎・基本の定着を図る。 ・各教科の授業での指導や子ども新聞(あわっ子タイムズ)の活用などを通して読み取りの方法の定着を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自信がある時や小集団の中では、意欲的に自分の意見を表現することができる。 ●根拠をもとに話したり、目的や意図に応じて書いたりする力が弱い。	・自分の考えをもち、多様な方法で表現することができる。 ・自分の意見と比べながら、最後まで相手の話を聴くことができる。	・自力解決の時間を確保し、ノート等に自分の考えを書き留め、残していくよう指導する。 ・「あったかいおへそ」を徹底し、児童が自分の意見を表現しやすい雰囲気をつくる。 ・直接体験を多く取り入れ、相手に伝えたいという意欲をもたせたり、ペア学習やグループ学習等で表現する機会を増やしたりする。	継続	・「あったかいおへそ」の意識が高まり、相手の意見を聞いて、自分と同じ(似ている)考えか異なる考えかを意識しながら聞く児童が増えた。 ・ペア・グループ学習を積極的に取り入れ、児童が自分の意見を発言できる機会を増やしたことで、話し合うことに対して抵抗がなくなってきた。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は直接体験を取り入れている」という項目で90%近くあった。	・異学年交流の時間(異学年での読み聞かせ)を今後も続け、相手意識をもち、表現方法を考えたり、聞いたりする機会を確保する。 ・直接体験を積極的に取り入れ、相手に伝えたい・書きたい・話したいという意欲をもたせるようにする。 ・家族読書と呼びかけ家庭で読書をする時間を設けたり、保護者も参加できるような研修を考えたりする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題やパターン化されたドリルなどに関しては、真面目に取り組むことができる。 ○自主学習ノートに意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ●家庭学習の質に差がある。 ●困難な課題になると最後まで粘り強く取り組むことができない児童が多い。	・自ら進んでめあてをもち、学習に取り組むことができる。 ・間違いをおそれず、どうしたらできるようになるかを考え、実行することができる。	・何のための学習なのかを共有したり、自分の学習について振り返ったりする時間を設定する。 ・興味のあることを調べたり、実践したりし、その経験を書いたり話したりすることも自主学習として称賛する。	継続	・児童主体でめあてを決めたり、振り返りを行ったりすることで、多くの児童が目標をもって学習することができた。 ・自主学習に意欲的に取り組み、質が高まった児童が多かった。一方で、できないことに対して「どうしたらできるか」と最後まで粘り強く取り組むことに課題がある。	・「家庭学習の友」や「学年だより」等を通して、家庭と連携しながら児童が目標をもって課題に取り組むことができるようにしたい。 ・困難な課題にも、最後まで粘り強く取り組むことができるようにしたい。